

○ 盆綱とは

盆綱は、北部九州で広く分布しているお盆に行く綱引き行事で、子供たちを中心に行われる行事として伝承されています。

稲わらやカズラなどで編んだ綱を曳いて地区内を巡り、綱を引き合うことで精霊を慰めたり、彼岸へ送るものとして伝えられています。行事は8月のお盆期間に行われる地域が多く、お盆が近づくと各地では綱の製作の準備がはじまっていきます。

○春日市の盆綱引き ～小倉地区の盆綱引き～



現在、春日市で行われている盆綱引きは小倉地区だけです。今回は小倉地区の盆綱引きについて紹介します。

小倉地区で行われている盆綱引きは、昭和16年(1941)の太平洋戦争から一時期は途絶えていましたが、昭和50年(1975)に復活したと伝えられています。以前は小倉地区の青年団が取り仕切っていましたが、現在は小倉地区の夏祭りの行事として、小倉地区自治会が中心となって行っています。

今から約5年前までは、毎年8月15日に盆綱引きを行っていましたが、8月15日はおくり盆であるため家から出ることが難しく、「お盆で実家に帰省する人たちがいて人が集まらない」ことや「地区の子どもの人数が減ってきた」などの理由から、4年前からは8月の初旬に変更して盆綱引きを行うようになったそうです。



①盆綱引きの準備

盆綱引きで使う引き綱の素材には、つる草の一種であるカズラ(藤蔓)を使用します。昔は小倉地区のいたるところに自生していたカズラも、今ではほとんど見られなくなってしまいました。



◀ カズラ
(藤蔓という種類の植物を使います)



カズラは当日の朝に引き綱にするための太い3本と、結ぶ用の細いカズラを2～3本を切り出します。切り出しが終わると公民館の広場に運び、引き綱を編んでいき、最後に紅白の綱をつけていきます。つくり終わったら木陰で夜の出番までおいておきます。昔の引き綱はカズラだけでつくられていましたが、現在はカズラの長さが足りないのので、両端に綱引き用のロープを付け足して作っています。



昔は切り出したカズラを小倉の住吉神社の大木たいぼくに引っ掛けてカズラをより合わせ、完成した引き綱ほくのうは住吉神社に奉納してから、時間になると運んで使用していたそうです。



②盆綱引きの本番



盆綱引きは午後7時45分過ぎになると準備され、自治会長の合図で子どもと大人に分かれて綱にぎを握ります。綱を引き合う合図は、自治会員が唄う「祝いめでた」です。「祝いめでた」うたを唄い終わると同時に盆綱引きが開始され、1回行うごとに子どもと大人は場所を交代し、勝ち負けに関係なく3回行います。



3回目の勝負がつく前に、鉈なたで綱の真ん中を切ってしまいます。このことが、祖先の霊そせんを慰める供養れいとも、豊年なかつの年の占いくようとも言われています。

ちなみに盆綱引きで使い終わったカズラは、住吉神社で保管し、翌1月に行われる左義長さぎちやうで焼かれるそうです。

まめちしき お盆とは

お盆というのは、正式には盂蘭盆会うらぼんえといい、夏まつに祖先の霊きゆうれきを祀る行事です。元々は旧暦の7月15日を中心としたものだったのですが、現在は月遅れにあたる8月15日が一般的になっています。

お盆には、先祖や亡くなった人達の精霊せいれいが道に迷わず帰って来ることができるように、13日の夕刻に盆提灯むかを灯し、庭先に迎え火おがらとして麻幹たを焚きます。14、15日は精霊は家にとどまり、16日の夜帰って行きます。今度は送り火おくを焚き、霊を送り出します。